

少子化対策・女性の活躍促進・スポーツ振興対策特別委員会 県内調査概要

令和5年8月21日（月）

【調査目的】

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の奈良県開催に向けたスポーツ拠点の整備について

【調査概要】

各視察先の現地にて施設見学を行い、説明を受けた後、質疑応答を行った。

I ロートフィールド奈良（奈良市法蓮佐保山四丁目5番1号）

<概要説明>

・ロートフィールド奈良（鴻ノ池陸上競技場）の施設データは下記のとおり。

アクセス：車で来場の場合 駐車可能台数 約450台

電車で来場の場合 近鉄奈良線「近鉄奈良駅」から徒歩約20分

竣工：昭和58年3月31日

規模：総面積 34,863平方メートル

主な設備：トラック 1周400m 8レーン（100m 9レーン）

全天候舗装走路（ブルートラック）

走幅跳・三段跳・棒高跳 各6ヶ所

3,000m障害物競走設備 1ヶ所

走高跳 2ヶ所

ハンマー投・円盤投・やり投 各2ヶ所

砲丸投 5ヶ所

フィールド芝生部 8,770平方メートル

トラック部分 12,100平方メートル

観覧席

・正面スタンド（鉄筋コンクリート造り一部3階建） 5,600席

※正面スタンド構造

1階 管理事務所・選手更衣室・シャワー室・トレーニング室・器具庫等

2階 特別室・会議室等

3階 放送室・写真判定塔等

・芝生スタンド 25,000人収容

- ・ 1984年の第39回国民体育大会（わかくさ国体）では、鴻ノ池陸上競技場で総合開会式を行った。
- ・ 陸上競技場は、日本陸上競技連盟により第1種の公認を受けている。
- ・ 約3万人の観客を収容することができる（正面スタンド約5千名、芝生スタンド約2万5千名）。
- ・ この春から、奈良期待のJリーグである奈良クラブがJ3に昇格し、こちらで年間約19試合のホームゲームを行うこととなっており、ホームグラウンドとして親しまれている。
- ・ 現在、ナイター開催のため、Jリーグ基準の照明塔を整備しており、令和5年12月頃にかけて工事を行う。
- ・ 隣に見えるグラウンドが補助競技場で、日本陸上競技連盟より第3種の公認を受けている。このほか、投てき練習場、多目的広場、テニスコート(10面)、体育館、武道場、野球場があり、プール以外はすべて整っている運動施設である。
また、スケートボード場を現在建設中で、令和5年9月に開設予定である。
- ・ 令和5年4月に、ブルーのトラックレーンの改修工事をし終えたばかりである。

<質疑応答>

Q：JリーグのJ1、J2開催基準には規模が足りないのか。

A：J2では、メインスタンドのみで1万人以上収容可能である必要がある。

また、照明においては、フィールド上は1,500ルクスの照度が必要であるところ、現在の照明では照度が足りず、高さが低いために、サッカーボールに照明が入ってまぶしいということがあり、野球場と同じ高さくらいの、高い照明塔をいま造っているところ。現在、照明塔を整備しているのは、J3基準を満たすためのもので、1年遅れている状況である。

J2スタジアム基準で、観客席、バックスタンドをすべて屋根で覆わなければならないが、また8千人以上を収容できなければならないが、実際の利用があるなかで工事を行うのがなかなか難しい。

Q：国民スポーツ大会開催のための陸上競技場としての基準はすべて満たしているのか。

A：開催にあたり、第1種の公認は必須である。

現在、第1種の公認は受けているが、過去に建設されたもののため、既存不適格の状態。開催するにあたって、どこまで備えていく必要があるかで話が異なってくる。

例えばメインスタンドで7000人規模、屋根付きである必要とするならば、改修が必要となってくる。

Q：全国障害者スポーツ大会の開催にあたり、車椅子利用など障がいをお持ちの方の利用もあるが、観客席や施設の入口などにおいて、バリアフリーになっているのか。

A：車椅子の方はスタンドの下側にスロープ付のバリアフリー席があり、ご覧いただける場所がある。

しかし、2Fスタンドには、エレベーターがないため、ここまであがることができない。

Q：「緑の丘」で鹿とよく遭遇する。鹿の行動範囲が広がっているなか、損害等の影響はあるのか。

A：鹿は近寄らない限りは害は起こさない。近寄ると、奈良公園の鹿と異なり逃げていく傾向にある。ゲートの中には入れないように、施錠している。現時点で、利用者には怪我をさせるなどの損害も起きていない。

Q：風の影響を競技が受けている印象があるが、それはスタンドを囲む屋根がないためなどの理由もあるのか。

A：西側から追い風になるような形でと方向は決められている。
風によって記録が出しやすいということもあるので、選手からは好まれている。

Q：現在、国民スポーツ大会等のメイン会場のことで知事から話も出ているが、県と奈良市で何か協議は始まっているのか。

A：もともと陸上競技については、橿原市に第1種陸上競技場をつくるということで進めていたが、知事が替わって、方針も変わった。国民スポーツ大会の基準を満たす第1種陸上競技場は県内に鴻ノ池陸上競技場だけなので、現在、奈良市と協議を進めているところである。

Q：事務的又は工事的なタイムリミットはいつなのか。

A：陸上にかかわらず、令和6年度中にはすべての競技会場地を決めなければならない。
令和13年度の開催に向けて、再来年度に各競技会場地の視察がやってくるが、その際にどこにどの会場をつくるなどをすべて示さないといけない。
現在、内々定の状態であるが、会場地が決まって視察後に内定が出る予定なので、それができなければ内定が出ない。

Q：駐車場が少ないと感じるが、拡幅できるのか。

A：予算がついて、今年、ホテル跡地を駐車場にすることで増設を考えている。
利用者から不便という声もあるので、随時拡幅をしてということは考えているが、今後のことは具体的なことは申し上げられない。

Q：老朽化の対策は、奈良市の予算でのここまでの改修で問題なしとなっているのか。陸上競技場に限らず、体育館や武道場など含めてどのような状況なのか。

A：前のインターハイの際は県から補助をいただいているが、それ以降は奈良市で行っている。今回のトラック整備、第1種公認継続にも約5億円かかっている状況である。



II 檀原運動公園（檀原市雲梯町323-2）

<概要説明>

- ・檀原運動公園の施設データは下記のとおり。

アクセス：車で来場の場合

阪和自動車道 美原JCTから南阪奈道路経由で約20分

西名阪自動車道 郡山ICから京奈和自動車道経由で約20分

西名阪自動車道 柏原ICから国道で約30分

電車で来場の場合 近鉄南大阪線坊城駅から東へ徒歩約10分

主な設備：硬式野球場、軟式野球場、ソフトボール場、テニスコート、

ヤタガラスフィールド檀原（多目的グラウンド）、屋根付運動場 など

- ・檀原運動公園は、昭和51年に建設された、各種スポーツ競技、レクリエーションなど年間を通じて幅広い年齢層に利用していただける屋外型複合運動公園である。
- ・令和4年4月1日から檀原運動公園指定管理者として「SAP檀原運動公園共同事業体」が管理・運営している。
- ・プールは、昭和55年にレジャープールが開園し、昭和57年に25m・50mプールが増設された。その後、スライダーなど子どもが喜ぶ施設を順次増設して、現在は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策に設備の老朽化が重なり、令和2年度から休園している。
- ・運動公園としては、プールの整備後、昭和62年に軟式野球場・ソフトボール場を開設、平成10年に硬式野球場を整備。
また、令和元年には、サッカーやラグビーができる人工芝のヤタガラスフィールド檀原2面を整備して現在に至る。
- ・運動公園のうち、今回の新たなスポーツ拠点施設の対象となっているエリアは、道路の北側の部分である総合プールに軟式野球場とソフトボール場を含めたところである。
こちらと、区域外の野球場東側にある民地と合わせた約10ヘクタールが、今回整備の対象地域として県と協議を進めてきた場所である。
- ・令和3年度に「檀原市スポーツ施設計画」を策定。計画では、総合プールは廃止の方針。
軟式野球場・ソフトボール場の利用頻度・老朽化の観点から再整備を検討。
道路の北側は檀原市としても費用がかかる。

・総合プールは檀原市にとっても、奈良県民にとっても、象徴的であり、休園に関する問い合わせも多い。平成29年の利用者数は、総合プールだけで約91,000人。

・令和4年の利用者数（年間）	軟式野球場	約 8,500人
	ソフトボール場	約 7,500人
	硬式野球場	約13,000人
	ヤタガラスフィールド檀原	約88,600人
	屋根付運動場	約24,000人

<質疑応答>

Q：来場者がどこの市町村からどれくらい来ているか、内訳は把握しているか。

A：市内・市外の内訳は利用料金が異なる関係で把握しているが、それ以外は把握していない。なお、市外料金は、市内料金の倍である。

Q：市内・市外の比率は。

A：運動公園で一番人気のあるヤタガラスフィールド檀原では、おおよそ3/4が市内、1/4が市外である。

Q：「檀原市スポーツ施設計画」は、メイン会場がある前提のことと思うが、一旦事業停止となった現状で、今年度の檀原市の動きは決まっているのか。

A：指定管理の期間を2年としているのは、通常であれば短い期間である。これは、整備計画が進むという前提でそういった期間設定をしているものであり、今年は更新があるが、どうしたものかというのが実態である。計画上、廃止や集約をしていくというのは、一旦事業停止となっている整備計画があろうとなかろうと、していかなければならない。そのタイミングの問題である。

Q：電車で来場の場合、県内のスポーツができる施設で、檀原運動公園よりアクセスの良いところはあるのか。

A：電車でアクセスと言えば、一番アクセスの良い県立檀原公苑を除いて、たとえば新駅ができれば檀原運動公園が有利になってくる。

わかくさ国体の際には、鴻ノ池陸上競技場は「やすらぎの道」が混んで、開会式に選手団のバスが間に合わなかったと聞いている。

選手団の多くはバスで来場するので、檀原運動公園はアクセス面で有利である。

新駅ができて、仮にシャトルバスを走らせれば、約5分で到着できる。

Q：廃止しない南側のみ運営した場合の維持費と収益のバランスの試算は行っているか。

A：再整備が叶った場合、県と檀原市で一緒に運営していこうとなっていたので、南側のみの試算はしていない。



Ⅲ 県立橿原公苑（橿原市畝傍町５３）

<概要説明>

- ・県立橿原公苑の施設データは下記のとおり。

アクセス：電車で来場の場合 近鉄橿原線 畝傍御陵前駅から徒歩５分

近鉄橿原線・近鉄南大阪線 橿原神宮前駅から徒歩５分

主な設備：弓道場、第１体育館、第２体育館、相撲場、陸上競技場、野球場など

- ・県立橿原公苑は、昭和１５年に「橿原道場」として創立された。
戦後、昭和２４年に県教育委員会に移管され、名称も「奈良県立橿原公苑」と改称。
その後、県内スポーツ施設の中心的な役割を果たしてきた。
- ・創立以来８０年余の歴史のなかで最大の改修は、昭和５９年のわかき国体の際に、昭和５６年から約２４億円をかけて一帯整備したものである。
- ・ネーミングライツの活用により、平成２２年から野球場は「佐藤薬品スタジアム」、平成２８年から第１体育館は「ジェイテクトアリーナ」として広く認知されている。

<第２体育館>

- ・昭和５６年整備の際に竣工されたもので、クーラーがついていない。
トイレも和式であったり、課題が多い。

<第１体育館>

- ・物理的にスタンドの下が倉庫になるところ、スタンドが少ないので、倉庫の絶対数・面積が足りない。
- ・エレベーターは設置しているが、多くの来場があった場合、どこまで対応できるかという課題がある。また、更衣室までは階段であったり、通路が狭いなど、バリアフリーへの対応の問題がある。
- ・床面の耐荷重の耐性がなく、強度が足りない。三重県四日市市の新しい施設では、１平米あたり５トンが標準であるところ、この施設は１平米あたり５００キロである。
- ・空調にかかる費用が高い。

<陸上競技場>

- ・メインスタンドは約３，０００人収容可能。
- ・座席が木製の部分があり、腐っているところもある。
- ・屋根が少ない。
- ・照明の照度が足りない。

<野球場>

- ・バックヤードが狭く、少ない。
- ・電光掲示板が旧式であるほか、人工芝も劣化している。
- ・両翼98m必要であるところ、この野球場では93mしかない。5m延長するにも、周囲が橿原神宮の土地や公道であり、困難である。

<質疑応答>

Q：開会式を行う場合、座席など収容人数は基準を満たすのか。

A：開会式会場は3万人を収容できる施設である必要がある。

